

## 論文審査の要旨

報告番号	甲・㊦ 第 2967 号	氏名	前田 康晴
論文審査担当者	主査 吉田 仁 教授 副査 村上雅彦 教授 副査 瀧本雅文 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>著者らは近年有用性が報告されている Endocytoscopy (EC) に Narrow-band imaging (NBI) を併用した EC-NBI の潰瘍性大腸炎患者の炎症の評価に用いることが可能かを検討するために、本研究を立案した。潰瘍性大腸炎患者 52 症例を対象として EC-NBI による直腸粘膜の毛細血管の所見の組織学的炎症 (Geboes index) の有無の診断能を従来の通常内視鏡観察 (Mayo index) 診断と比較した。</p> <p>① EC-NBI 所見と潰瘍性大腸炎の組織学的炎症所見を対比させ、相関性を検討した。</p> <p>② EC-NBI 所見の潰瘍性大腸炎の組織学的炎症に対する診断精度を Mayo index と比較検討した。</p> <p>結果</p> <p>① 直腸粘膜を EC-NBI にて観察すると、組織学的炎症の程度が強くなるにつれて、毛細血管の視認性はよくなり、腺腔間にて増生血管を認め、血管径も太くなる傾向をみとめた。the Spearman rank correlation coefficient は <math>r = 0.871</math> (<math>P &lt; 0.001</math>) と高い相関性を認めた。</p> <p>② EC-NBI 所見の組織学的炎症 (Geboes index) の有無の診断能は：感度 84.0%，特異度 100%，正診率 92.3%，一方、Mayo index は：感度 100%，特異度 40.7%，正診率 69.2% であった EC-NBI 所見は Mayo index と比較すると、特異度と正診率が有意に優れていた (<math>P &lt; 0.001</math>, <math>P = 0.047</math>)。</p> <p>本研究は EC-NBI 所見が潰瘍性大腸炎の組織学的活動性の評価に有用である可能性を明らかにし、極めて学術上価値がある研究であり、学位に値するものと判断した。</p> <p>論文題名：Endoscopic narrow-band imaging efficiency for evaluation of inflammatory activity in ulcerative colitis.</p> <p>(NBI 併用超拡大内視鏡による潰瘍性大腸炎の活動性の評価)</p> <p>掲載雑誌名：World Journal of Gastroenterology (Vol.21 No.7 p2108-2115 2015 年掲載)</p>			

(主査が記載、500 字以内)